

1. 研究主題

## 自ら考え，共に学び合う子の育成

～国語科，算数科の学習を通して～

2. 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念の下，実際の社会で活用できる力として育成を目指す三つの「資質・能力」が示された。一つめは，「知識・技能」（何を理解しているか，何ができるか）二つ目は，「思考力・判断力・表現力等」（理解していること・できることをどう使うか）三つめは，「学びに向かう力・人間性」（どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか）である。また，同時にこれらの「資質・能力」を育成するために，授業中に実現したい子どもの学びの姿として「主体的・対話的で深い学び」が提唱された。

本校の研究主題「自ら考え，共に学び合う子の育成」はまさにこの「主体的な学び・対話的な学び」を授業の中で具現化していくことを目指していくものであり，その一つ一つの積み重ねが子どもたちの「新しい時代を生き抜く力」の育成につながるものと考えている。

(2) 学校教育目標の具現化に向けて

本校の学校教育目標は，「自分で考え，進んで勉強する子（知）」、「思いやりの心を持ち，助け合う子（徳）」、「明るく元気でたくましい子（体）」である。

研究主題の「自ら考え」は学校教育目標「自分で考え，進んで勉強する子」の育成に，「共に学び合う」は「思いやりの心を持ち，助け合う子」の育成に向かうもとと考えられる。

(3) これまでの研究と児童の実態から

一昨年度まで，教えて考えさせる授業を習得型のスタンダードとして算数科の授業を中心とした研究を積み重ねてきた。その結果，各種テスト等でも一定の成果を上げることができた。そこで，本校の子どもたちにさらにつけさせたい力は何かを議論した結果，「主体的に進んで学ぼうとする力」，「自らの考えを表現し，発信する力」，「子どもどうして学び合う中で相手を思いやり尊重する力」等をさらに伸ばしていきたいという意見が出された。そこで，昨年度から研究主題を上記のように定め，子どもたちにとってよりよい授業づくりをめざすこととなった。

一年間の研修を通し，主題の意図やめざす子ども像が先生方におおむね理解され，育てたい力を意識しながら授業研究を行うことができた。子どもたちの様子からも成果が見えてきている。また，学年内で教材研究を深める，授業を見せ合う，などして協力して指導案を検討することで，各自の授業力の向上につながった。

今年度は理論の共通理解をさらにすすめて，「自ら考え，共に学び合う子の育成」を目指した授業の定着を図りたいと考えている。期待する子どもの姿，一単位時間の流れ，指導方法やふりかえりのあり方はさらに具体的に見えやすいものを提案することで目指す子ども像に迫れるようにしたい。授業の根本にある「今日の学習がよくわかった！」をどの子にも味わわせることができ，子どもたちの笑顔があふれる授業づくりが大切であると考えている。

### 3. 研究主題について

自ら考え、共に学び合う子の育成  
～国語科，算数科の学習を通して～

研究主題にある「自ら考える子」は「主体的に課題に取り組む子」と考える。また「共に学び合う子」は「他者との関わりを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる子」と考える。

研究副主題は、国語科，算数科が基幹教科であること。カリキュラムマネジメントの観点から、国語科が各教科の言語活動の基盤となる教科であること。習得型の算数科の成果を踏まえ、活用型の算数科の授業づくりを工夫する必要があること。以上の三つの理由から国語科，算数科を研究教科とした。

### 4. 目指す子ども像と研究仮説・視点

#### (1) 主体的に課題に取り組む子ども

⇒ 学ぶことに興味，関心を持ち，見通しを持って課題に取り組み，自分が学習した事をふりかえることで，主体的に学ぶ子どもになるだろう。(研究仮説①)

- 視点1**
- ・導入の仕方を工夫すること。
  - ・解決の手立てを明確化すること。
  - ・自己の学習を振り返って次につなげる場面を設定すること。

#### (2) 他者との関わりを通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる子ども

⇒ 自分の考えを持ち，進んで他者と関わり合う経験を積み重ねることで，自分の考えを深めたり広げたりすることができる子どもになるだろう。(研究仮説②)

- 視点2**
- ・自分の考えを表現させる方法を工夫すること。
  - ・他者と関わり合う場面を設定すること。
  - ・学習形態の工夫すること。

### 5. 今日の課題と研究主題，「目指す子ども像」，仮説，視点とのかかわりについて

☆学習指導要領改訂のポイント

「社会に開かれた教育課程」の理念の下，実際の社会で活用できる力として「育成を目指す三つの資質・能力」が示された。

- ①「知識・技能」⇒ 何を理解しているか，何ができるか  
(生きて働く「知識・技能」の習得)
- ②「思考力・判断力・表現力等」⇒ 理解していること・できることをどう使うか  
(未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」)
- ③「学びに向かう力・人間性」⇒ どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか  
(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

この「**資質・能力**」を育成するために



授業の中に実現したい子供の学びの姿として  
「**主体的・対話的で深い学び**」が提唱

☆中教審（中央教育審議会）答申の中で描かれた「学校教育を通じて子どもたちに育てたい姿」

・社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り開いていくことができること。

主体的な学び → 目指す子ども像 1

・対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるときにも、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協議したりしていくことができること。

対話的な学び → 目指す子ども像 2

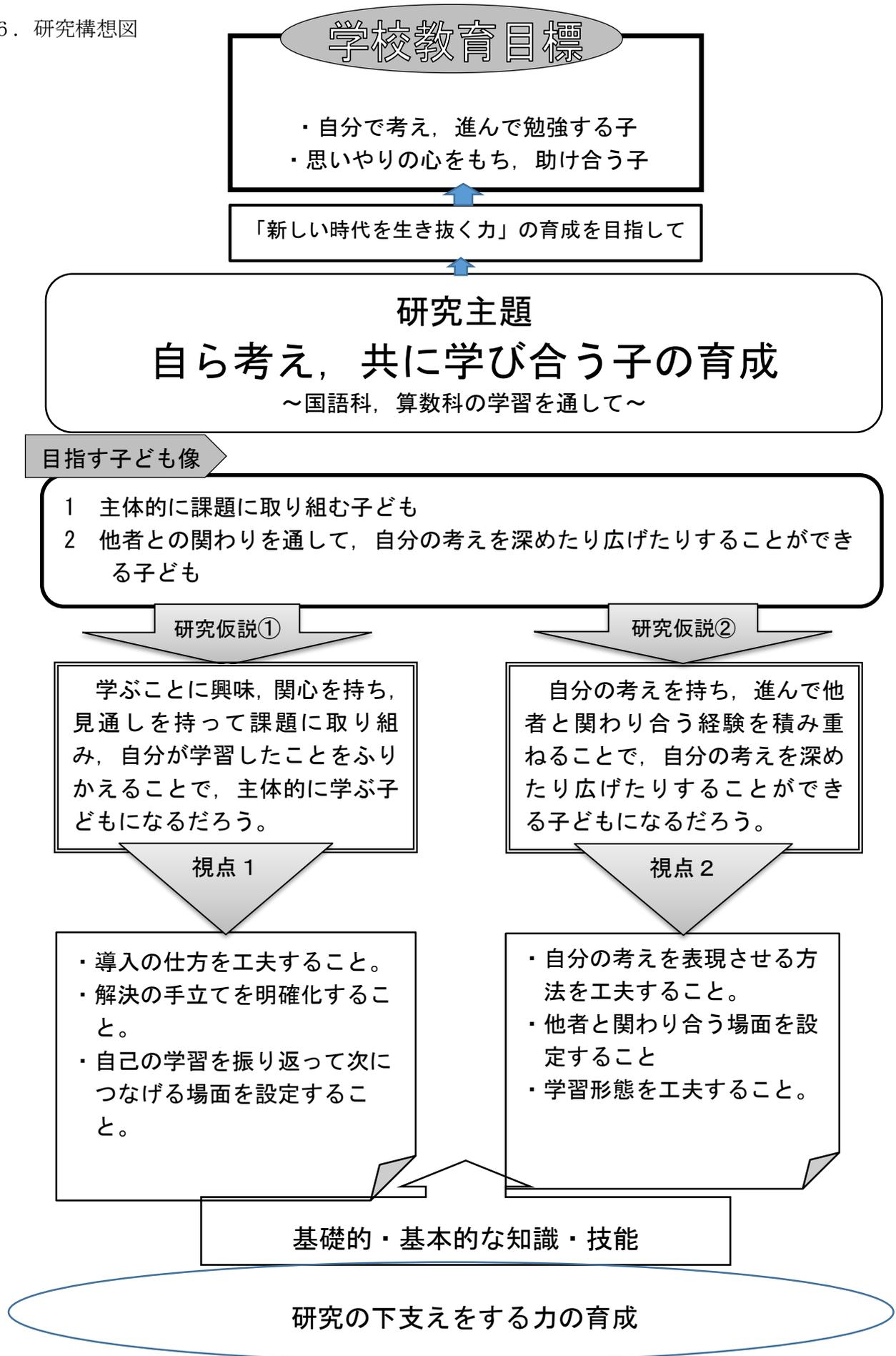
・変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら、問題を発見・解決し、新たな価値観を想像していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

深い学び → 目指す子ども像 1 および 2  
(ただし 1 単位時間の達成は必ず  
かしいこともある。)

#### 参考文献

- 「平成 29 年度版 小学校新学習指導要領 Q & A」 明治図書 2017 年  
「主体的能動的な学習」 金子書房 2016 年  
「授業の見方」 東洋館出版社 2017 年

6. 研究構想図



## 7. 研究の具体的な取組

### (1) 視点とのかかわりを明らかにした指導案形式の統一

主体的で対話的な深い学びの実現に向け、授業のどの場面でどのように主体的な学びや対話的な学びを設定するのかを指導案の中に明確にすることにより、子ども達に全校で統一的な指導ができると考え取り組んでいる。また、視点を明確に焦点化することにより、授業研後の研究協議に深まりが生まれ、校内公開授業の改善にもつながっている。

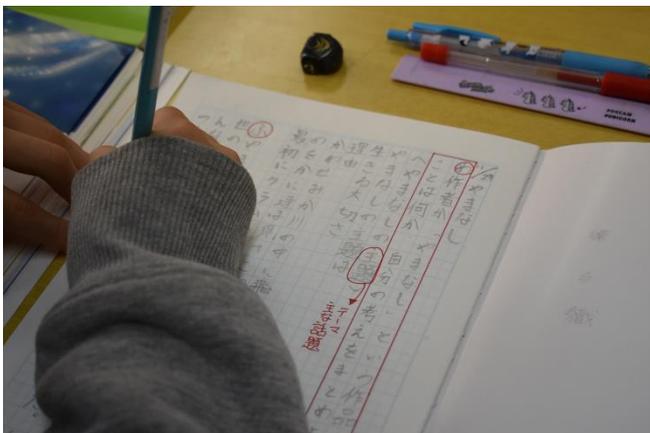


段階	授業の流れ	視点とのかかわり	期待される子どもの学び姿(例)
つかむ	○問題・課題との出会う。 主体的な学び	☆導入の工夫(視点1)	・今日の課題はなんだろう。 ・おもしろそう。 ・なぜなのかな。不思議。 ・やってみよう。
とりこむ	主体的な学び	☆解決の手立ての明確化。(視点1) ※前後することも考えられる。	・どうやってできるだろう。 ・この方法でできそうだな。 ・だれかに相談したらいいな。 ・前に習ったな。
	○自分なりの考えをもつ。	☆自分の考えをもち、表現させる。(視点2) 対話的な学び	・答えはこうかな。 ・自分はこう思う。 ・解決のしかたは○○だ。 ・答えは○○だ。 ・考えたことを書こうかな。 ・考えたことを発表したい。
	○他者と対話することで、自分の考えを吟味する。	☆他者と関わり合う場面を設定する。学習形態を工夫する。(視点2) 対話的な学び	・みんなはどのように考えたのだろう。 ・○○さんと同じだ。 ・○○さんと違って自分はこう思う。 ・○○さんの意見が分からないからもっと知りたいな。 ・なるほどよくわかった。 ・なるほど、自分の考えがかわった。
ふりかえる	○課題、問題に対する答えを取得する。 ※算数の場合ここで練習問題、発展問題に取り組みこともある。	まとめ(はっきりとしたまとめがない場合もある) 主体的な学び	・答えはこうだったな。 ・やり方がわかった。
	○自己の学習を振り返り、学習内容を深める。	☆自己の学習を振り返る。(視点1)	
	深い学び(特に◎で)	授業の週末において期待する子どもの姿 ・よくわかったな ◎たのしかったな ◎もっとやってみよう ◎違う問題や文章ではどうだろう ◎前に習ったことここが同じだ(おがうな) ◎自分でも調べてみよう 等。	

### (2) 自己調整力育成を目指した「ふりかえり」

児童の深い学びを実現するためには、児童自身がその時間の学習内容を理解できたか、また、自分はその時間の課題に対して、どんな考えをもち、どのように変化したのかなど、自分自身のことを理解することが大切である。

そのため、本校では、「ふりかえり名人」を各教室に掲示し、児童自身が振り返る場面での視点を明確にし、取り組んでいる。



## ふり返り名人

- ①分かったこと。大切な事。
- ②わからないこと。
- ③できるようになったこと。
- ④学習の感想。
- ⑤自分のがんばり。
- ⑥前の学習とのつながり。
- ⑦友だちの考え。
- ⑧生活の中で役立てられそうなこと。



【4～6年生用】

授業の心構え「五か条」

- 一、授業前に、次の時間の準備をします。
- 二、正しい姿勢で学習します。
- 三、先生や友達の話をしつかり聞きます。
- 四、相手にわかりやすく、はっきりと話します。
- 五、ノートはわかりやすく書きます。

(3) 授業の心構えの統一

旭丘小学校・知利別小学校・八丁平小学校・桜蘭中学校では、小中連携の一環として授業の心構えを統一し、担任が変わっても児童が混乱や不安を抱かないように取り組んでいる。

机の上に置くものやノートの取り方、話し方・聞き方など、詳細まで統一することにより、どの学級も年度はじめより充実した授業を展開することができている。

すべての学級に掲示することから、児童への浸透も徹底している。



8. 成果と課題

①研究主題・副主題について

☆主題の意図がおおむね理解され、主題に沿った授業研究を行うことができた。子どもたちの様子からも成果が見えてきている。

☆次年度も同じ主題でよいと考える。副主題については具体的に「主体的・対話的な授業を通して(国語・算数科)」(例)などにしてもよいかもしれない。

☆研究教科については下の項目④にて。

②めざす子ども像について

☆めざす子ども像がおおむね共有され、そのための育てたい力を意識しながら授業研究を行うことができた。子どもたちの様子からも成果が見えてきている。次年度も同じ内容でよいと考える。

☆目指す子どもの姿をさらに具体的にする必要があり、またそのための手立てについても具体的な方法を例示できるとさらに、イメージしやすいだろう。

③視点について

☆視点の内容がおおむね理解され、視点を意識した授業作りが行われていた。「ふりかえり」についてはその意義をさらに検討し、適切な方法について考えていかなければならない。

☆1単位時間の中にすべての視点を入れると時間配分が難しくなる。学習内容に応じて必要な視点を取り入れることでよいのではないか。例えば、二つの視点について最低1項目ずつ1単位時間に取り入れるぐらいの余裕を持たせた方が時間に追われず、いろいろな授業の形態をとることができるかもしれない。

#### ④研究教科・組織について

☆研究教科を絞るかどうかは、どちらもメリット、デメリットがあり、議論の分かれるところである。今年度は二教科にしたことで、授業作りについての視野が広がったことがうかがえる。研修部としては、どの教科にも通ずる授業作りを念頭に提案をしているので、複数教科を研究する方向は継続していきたい。

☆運営的には一教科にした方がやりやすい部分もあり、そういうデメリットを解消する工夫が必要である。

#### ④授業研の持ち方について

☆学年内で教材研究を深める、授業を見せ合う、などして協力して指導案を検討することで、各自の授業力の向上につながった。

☆研究授業の持ち方は妥当なところだった。ただ、学校行事との兼ね合いで十分に指導案検討ができなかった授業研もあり、授業者に迷惑をかけた。日程を工夫し、無理なく充実した授業研究にしていきたい。



3年生算数ペア学習



6年生国語グループ学習